

当社は、持続可能な未来を目指し、  
水源の森を守る活動やESG投資と自然資本関連の  
イニシアチブ団体と協働活動も推進しています。

## 水源の森を守る活動

当社は2019年7月から、東京都水道局の  
「みんなでつくる水源の森実施計画」に賛同し、  
「東京水道～企業の森（ネーミングライツ）」の協定を  
東京都水道局と締結しています。

山梨県甲州市内の水道水源林を、  
「SMTAMの森」と命名し、  
新人研修を兼ね、役職員が、実際に森の中に入り  
地ごしらえ活動、植栽活動、下刈り活動を実施し  
多摩川上流にある水道水源林の保全活動を行っています。

「企業の森」に参画することで、  
企業市民として、地域の水資源・森林資源の保全や  
森林の持つ生物多様性保全機能の維持に努め、  
SDGsの達成に貢献していきます。



2024年の活動風景



## SMTAMのESG投資と自然資本への取り組み

### ① ESG投資のあゆみ



サステナビリティは、地球環境における活動の限界と密接に関係しています。産業革命以来の経済成長は技術革新に支えられてきましたが、近年では資源枯渇や環境悪化、資源価格高騰や労働環境悪化などの問題を招いています。

このような環境下、全ての経済主体がサステナビリティを意識した行動をとる必要があり、経済の主役である企業には、サステナビリティに配慮した経営が求められています。一方、我々資産運用会社はエンゲージメント等を通じて投資先企業のサステナビリティ向上に貢献することが期待されています。

### ② イニシアチブ団体を通じた協働エンゲージメント活動



TNFD(Taskforce on Nature-related Financial Disclosures)は、気候変動に関する情報開示の枠組みであるTCFDに倣い、自然資本に関する情報開示を企業に促すことを目的としています。

当社はTNFDフォーラムの立ち上げ準備活動から参画しており、2024年1月にはTNFDが公表した情報開示制度に関して早期適用宣言を実施しました。

また、投資先企業に対しては当社単独エンゲージメントに加えて、FSDA※を通じて森林保全に関する協働エンゲージメントを推進しています。

※ Financial Sector Deforestation Action Initiative。  
穀物生産サプライチェーンにおいて森林破壊に関係がある企業への協働エンゲージメントの推進を目的としたイニシアチブ



Nature Action 100は、世界のGDPの半分以上が自然資本に依存しており、自然資本の枯渇は世界経済に悪影響を及ぼすとの考え方の下、2030年までに自然と生物多様性の損失を食い止め、回復させる(ネイチャー・ポジティブ)ことを目標としています。

自然資本への依存度と影響が大きいグローバルトップ100の企業に対し、情報開示やガバナンスの高度化、それを通じた行動変容を促す協働エンゲージメントを推進しています。

当社は2023年の同団体の設立と同時に参加し、日本やアジアの計8社に対する協働エンゲージメント活動に参加しています。

SMTAMのESG投資に関する取組みはこちら

